

## 命を捨てるな

二年 中島めい

「犬は人を助ける。なのに、どうして人は犬を捨ててしまうのだろうか。」

犬「7687匹」猫「30757匹」。これは、2018年の犬、猫の年間殺処分数です。みなさんはこの数を聞いて、どう感じましたか。私はこの数を聞いて衝撃を受けました。

なぜなら、これほどもの数の大切な命が知らない間に失われているからです。

では、なぜこんなにも大切な命が次々と失われてしまうのでしょうか。

それは、子供ができたから、アパートに引っ越すことになったから、犬が病気にかかったから、増えすぎてしまったから、暴れるから、おとなしすぎるからなどの、どれも人間の勝手な理由で命が失われているということです。こんな理由で大切な命が捨てられていることを知り、私は怒りが込み上げてきました。

よく考えてみてください。もし、あなたが犬だったとします。赤ちゃんを授かり、苦しい思いをして産み、乳を飲ませ愛情が湧いたところに大切な我が子を取り上げられるのです。子犬にとっても、母や兄弟たちと急に引き離され、売り物にされるのです。新たな家族となった人が本当に愛情を持って育て

てくれるのなら幸せな犬生を送ることができるのかもしれませんが。しかし、可愛いと思って飼ってみたらうるさいし、こんなにも世話が大変だとは思っていなかった。などという理由で捨てられ、しまいは殺処分なんてことになったら、こんな不幸ことはありません。そうならない、そうさせない為に、私たちが人間に出来ることがあります。

私の家には犬がいます。名前は「もも」といい保護犬です。ももは、山梨県で生まれました。ももの母犬が野良犬だったので、生まれてすぐに4匹の子犬達は保護され、ボランティアさんに引き渡されました。こうして、ももの命が救われ、私たちの家へやってきました。

このように、今では殺処分ゼロ活動としてボランティア団体さんや、自治体の取り組みにより、保健所に収容され殺処分されてしまう動物の数は劇的に減少しています。しかし、殺処分を回避するために保護団体の負荷は増加しているのが現状です。

また、昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大によって、終わりの見えない自粛生活に癒しを求めペットを迎える家庭も少なくなりません。自分たちの意思で迎え入れたのだから、一時的な癒しや欲求のために大切な命を手放すようなことがない事を心から願います。

捨てるもよい命などないのだから。